


安全データシート

JIS Z 7252:2025 / JIS Z 7253:2019 に基づく (GHS 第9版準拠)

1. 化学品及び会社情報	
製品名	DPM
化学物質等の名称	ジプロピレングリコールモノメチルエーテル (Dipropylene Glycol Monomethyl Ether (mixture of isomers))
会社名	アーク株式会社
住所	大阪市中央区安土町 3-5-13
電話番号	06-6563-7710
FAX 番号	06-6563-7720
推奨用途及び使用上の制限	化学中間体、自動車の流体、クリーナー、染料、塗料、インキ、ワックス、接着剤、農産物、防虫剤、化粧品溶媒

2. 危険有害性の要約	
GHS 分類	JIS Z 7252:2025 使用 (GHS 第9版準拠)
危険有害性項目	分類結果
引火性液体	区分4
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分3 (麻酔作用、気道刺激性)
皮膚腐食性・刺激性	区分に該当しない
皮膚感作性	区分に該当しない
急性毒性 (経口・経皮)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入)	分類できない
水生環境有害性 短期 (急性)	区分に該当しない
水生環境有害性 長期 (慢性)	区分に該当しない
注) 上記で区分の記載がない危険有害性は、政府向けガイダンス文書で規定された「区分に該当しない」または「分類できない」に該当するものであり、後述の該当項目の説明を確認すること。	
GHS ラベル要素	
絵表示又はシンボル	 <p>感嘆符 (眼刺激性 区分2B、STOT 単回 区分3) ※引火性液体 区分4は絵表示なし (引火点 79°C、GHS 区分4は炎マーク付与対象外)</p>
注意喚起語	警告

危険有害性情報	H227 可燃性液体 H320 眼刺激 H336 呼吸器への刺激のおそれ、眠気やめまいのおそれ
注意書き	<p>【安全対策】</p> <p>P210 炎や高温のものから遠ざけること。 P260 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 P280 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 P264 取扱い後は手をよく洗うこと。</p> <p>【応急措置】</p> <p>P370+P378 火災の場合：適切な消火方法をとること。 P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。 P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 P312 気分が悪い時は医師に連絡すること。</p> <p>【保管】</p> <p>P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 P233 容器を密閉しておくこと。 P405 施錠して保管すること。</p> <p>【廃棄】</p> <p>P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。</p>
GHS ラベル要素分類に該当しない他の危険有害性	爆発性の過酸化物を生成することがある。

3. 組成及び成分情報

種別	化学物質（単一成分）
化学名又は一般名	ジプロピレングリコールメチルエーテル（Dipropylene Glycol Monomethyl Ether）
別名	1又は2 -（メトキシメチルエトキシ）プロパノール 1 -（2-メトキシ-1-メチルエトキシ）-2-プロパノール及び異性体混合物
分子式（分子量）	C ₆ H ₁₄ O ₃ 異性体混合物 分子量：148.20（CAS 34590-94-8）
CAS 番号	34590-94-8
官報公示整理番号（化審法・安衛法）	化審法：(2)-426（2類）、(7)-97（7類） 安衛法：公表化学物質（昭和54年6月29日までに化審法の規定により公示）
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし
濃度又は濃度範囲	≥99.0%

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 ※皮膚吸収性有害物質：皮膚への直接接触を避け、不浸透性保護手袋を使用すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合	口をすすぐこと。気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入：咳、めまい、傾眠。皮膚：吸収される可能性がある。皮膚の乾燥。「吸入」参照。眼：発赤、痛み。経口摂取：「吸入」参照。
最も重要な兆候及び症状	データなし
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	データなし
特有の危険有害性	引火性の高い液体および蒸気。消火後再び発火するおそれがある。火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。容器が熱に晒されているときは、移動しない。安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。密閉された場所に立入る前に換気する。※皮膚吸収性有害物質のため、皮膚への接触を避けること。
環境に対する注意事項	環境に放出しないこと。
回収・中和	不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	消防法の規制に従う。
	局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	炎や高温のものから遠ざけること。 適切な保護手袋（不浸透性）、保護面を着用すること。 取扱い後は手をよく洗うこと。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
	接触回避	10 項に示す混触危険物質との接触を回避する。
保管	技術的対策	消防法の規定に従う。
	保管条件	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。

	容器包装材料	データなし
--	--------	-------

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度（濃度基準値）	八時間濃度基準値：50 ppm 試料採取方法：固体捕集方法 分析方法：ガスクロマトグラフ分析方法（物質名：1-（2-メトキシ-2-メチルエトキシ）-2-プロパノール、安衛法）	
許容濃度	日本産衛学会	未設定
	ACGIH TLV（TWA）	100 ppm（skin）
	ACGIH TLV（STEL）	150 ppm（skin）
	OSHA PEL（TWA）	100 ppm（skin）
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。	
保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	不浸透性保護手袋を着用すること。（皮膚吸収性有害物質のため不浸透性保護具使用義務対象）材質例：ニトリルゴム、ネオプレンゴム（耐透過性能を確認すること）
	眼の保護具	適切な眼の保護具（保護眼鏡・ゴーグル）を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣（不浸透性素材）を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。	

9. 物理的及び化学的性質

形状	液体
色	無色
臭い	データなし
pH	データなし
融点・凝固点	-83 °C（SIDS（2001））
沸点、初留点及び沸騰範囲	189.6 °C（Merck 14th, 2006）
引火点	79 °C（CC）（BUA 174（1995））
自然発火温度	270 °C（SIDS（2001））
燃焼性（固体、ガス）	データなし
爆発範囲（上限界・下限界）	データなし
蒸気圧	0.41 mmHg（25 °C）（Merck 14th, 2006）
蒸気密度	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）	データなし
比重（密度）	0.948 g/cm ³ （25 °C/4 °C）（Merck 14th 2006、SIDS（2001））
溶解度	水：1×10 ⁶ g/m ³ （SIDS（2001）） ベンゼンに混和（Merck 14th, 2006）

オクタノール・水分配係数 (log Kow)	log Kow = 0.0061 (SIDS (2001))
分解温度	データなし
粘度	データなし
爆発物	該当なし
酸化性液体・固体	該当なし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	空気と接触すると爆発性過酸化物を生成することがあると推測される。強酸化剤と激しく反応する。多くの金属を侵して引火性/爆発性気体（水素）を生じる。
避けるべき条件	空気との接触。
混触危険物質	強酸化剤、金属
危険有害な分解生成物	爆発性過酸化物、引火性/爆発性気体（水素）

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット LD50 : 5230、5180、5400 mg/kg (SIDS (2001)) (GHS 分類 : 区分に該当しない)
	経皮	ウサギ LD50 : 13000~14000 mg/kg、>19000 mg/kg、9500 mg/kg (SIDS (2001)) (GHS 分類 : 区分に該当しない)
	吸入 (ガス)	GHS の定義における液体である。(GHS 分類 : 区分に該当しない)
	吸入 (蒸気)	ラットに 500 ppm (3.1 mg/L) を 7 時間ばく露により死亡なし (SIDS (2001)) から、4 時間換算 LC50 値は 661 ppm (4.1 mg/L) 以上。(GHS 分類 : 分類できない)
	吸入 (ミスト)	データなし。(GHS 分類 : 分類できない)
皮膚腐食性・刺激性	ウサギを用いた複数の試験で刺激なし (not irritating) (SIDS (2001))。ヒトでは皮膚に無希釈の試験物質を 5 日間適用しても刺激性なし。(GHS 分類 : 区分に該当しない)	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギに試験物質原液 0.1 mL 適用後に角膜と眼瞼に刺激症状がみられたが 7 日目までに回復 (SIDS (2001))。ヒトで 10 人の男性ボランティアの眼に 20% 溶液を適用した試験で、軽微な刺痛感、流涙、軽度な結膜充血がみられた (ECETOC TR95 (2005))。(GHS 分類 : 区分 2B)	
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器感受性 : データなし。(GHS 分類 : 分類できない) 皮膚感受性 : 200 人の被験者の背部皮膚に適用した皮膚感受性試験において、皮膚感受性の証拠は認められず。(GHS 分類 : 区分に該当しない)	
生殖細胞変異原性	エームス試験および CHL 細胞を用いた染色体異常試験でいずれも陰性 (SIDS (2001))。(GHS 分類 : in vivo の試験データがなく分類できない)	
発がん性	データなし。(GHS 分類 : 分類できない)	
生殖毒性	妊娠ラットおよびウサギの器官形成期に吸入ばく露した試験において、最高濃度 300 ppm で両動物種とも胚・胎児毒性または催奇形性を示さず。(GHS 分類 : 分類できない)	

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	ラットに経口投与した試験では中枢神経系の抑制、7時間の吸入ばく露では軽度の麻酔が認められている（SIDS（2001））。ヒトで100 ppm以上で中枢神経障害の徴候が現れる前に、鼻、咽喉、気道の刺激が苦痛を与えると記述（ACGIH（2001））。（GHS分類：区分3（麻酔作用、気道刺激性））
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	ラットまたはウサギの13週間吸入ばく露試験（蒸気：6 hours/day；5 days/week）のNOELは200 ppm（1.212 mg/L）以上（SIDS（2001））。（GHS分類：区分に該当しない）
誤えん有害性	データなし。（GHS分類：分類できない）

12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性）	藻類、甲殻類、魚類のいずれの急性毒性試験においても、LC50またはEC50が100 mg/Lを超えている（SIDS, 2003）。（GHS分類：区分に該当しない）
	水生環境有害性 長期（慢性）	急性毒性区分外であり、難水溶性でない（水溶解度 = 100 g/L（PHYSPROP Database, 2011））。（GHS分類：区分に該当しない）
残留性・分解性	分解性の判定結果：データなし 分配係数試験の試験結果：LogPow = 0.0061（J-CHECKNITE）	
生体蓄積性	蓄積性の判定結果：データなし	
土壌中の移動性	データなし	
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。（GHS分類：分類できない）	
内分泌かく乱性	データなし	

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報に基づく修正の必要がある。		
国際規制	国連番号	該当なし
	海上規制情報（IMDG）	特定できず
	航空規制情報（ICAO/IATA）	特定できず
国内規制	陸上規制情報	消防法の規定に従う。
	海上規制情報	特定できず
	航空規制情報	特定できず
特別安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。	

緊急時応急措置指針番号	—
-------------	---

15. 適用法令

労働安全衛生法（安衛法）

- ① 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（ラベル表示・SDS 交付義務対象物質）
政令番号：規則別表第2の2189
政令名称：1－（2－メトキシ－2－メチルエトキシ）－2－プロパノール
表示・通知の対象となる範囲：含有量1重量%以上
- ② 化学物質による健康障害防止のための濃度の基準（濃度基準値設定物質）
物質名：1－（2－メトキシ－2－メチルエトキシ）－2－プロパノール
八時間濃度基準値：50 ppm
試料採取方法：固体捕集方法 分析方法：ガスクロマトグラフ分析方法
- ③ 皮膚等障害化学物質等（不浸透性の保護具等の使用義務物質）
物質名：ジプロピレングリコールメチルエーテル
対象物質の区分：皮膚吸収性有害物質（裾切値：1重量%）

その他適用法令

- ・消防法：第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1・第4類）
危険等級Ⅲ 水溶性
- ・海洋汚染防止法：有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1）

16. その他情報

参考文献	各データ毎に記載した。
改訂内容	<p>【主な改訂箇所（JIS Z 7252:2025・GHS 第9版・最新法令反映）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セクション2：GHS分類基準をJIS Z 7252:2025（GHS 第9版準拠）に更新。注意書きコード（Pコード）を最新版に対応。 ・セクション8：安衛法 濃度基準値（八時間濃度基準値 50 ppm）を追記。 ・セクション8：皮膚等障害化学物質等（不浸透性保護具使用義務）の記載を追記。 ・セクション15：安衛法 ラベル表示・SDS 交付義務対象、濃度基準値設定、皮膚吸収性有害物質・不浸透性保護具使用義務を追記。 ・セクション12：分解性・蓄積性情報（化審法）を追記。 ・GHS 第9版に基づくHコード・Pコードの見直し。
改訂日	2026年5月29日（JIS Z 7252:2025 対応版）
備考	本SDSはJIS Z 7252:2025（GHS 第9版準拠）及びJIS Z 7253:2019に基づき作成した。法令改正に伴い随時改訂する。本情報は現時点で入手できる知識に基づくものであり、記載された条件での使用に対する製品の品質保証ではない。